



東洋一の水管橋

富士市は富士山の豊富な地下水に恵まれ、紙・パルプを中心とするいろいろな産業が発達しました。

ところが、工業の発展に伴い、地下水のくみ上げ過ぎが問題となりました。地下水の水位が低下し、塩水がまじるという現象が起こったのです。

そこで、昭和41年、地下水を守り、工場の水需要に応じるため、日本軽金属蒲原工場の発電放流水を工業用水に再利用する東駿河湾工業用水道の建設が始まりました。富士川にかかるこの水管橋の長さは、1,040mで東洋一です。昭和46年12月から一部給水を開始し、現在岳南地区には1日当たり67万5,600立方mの給水能力を持っています。

また、現在は六十二年。六十二年度で毘沙門さんから地域のお地蔵さんまで祭りを調査し、「祭礼調査報告書」をまとめています。

一口に祭りといつてもその数は多く、メンバーを小学校区単位に分けて、情報を集めながら始めました。



△文化財を守り育てる会員の皆さん



三井武夫さん

武田信玄の時代、今泉に今川氏の官寺として大伽藍を誇ったといふ善徳寺。今泉四丁目の三井武夫さん（六十二歳）は、今、善徳寺に夢中です。

昨年はテーマソングとも言える和贊と詩吟を作詞し、三月二十八日に初めて行われた善徳寺祭りの原動力になりました。

三井さんは「善徳寺は調べれば調べるほど、すごい寺。一人でも多くの人に存在を知つてもうたいね」と熱く語ります。

市内で九人目の百歳に

丈夫なおばあちゃん

入山瀬の渡辺りんさんは、四月十五日、百歳の誕生日を迎え、市内で九人目の百歳到達者となりました。渡辺さんは、ここ五年ほど風邪一つ引いたことがなく、足腰や目も耳もいたつて丈夫。御祝いに駆けつけた渡辺彦太郎市長も「百歳とは思えない」と目を白黒。

長寿の秘訣は規則正しい生活と適度な運動。簡単のようでなかなかできないことです。



渡辺市長から御祝いを受ける
渡辺りんさん



△翁祖清さん



△童衍方さん

（土）まで、市役所二階市民ギャラリーで、中国の書画展が開かれます。出品者は中国人の翁祖清さんと童衍方さん。二人は上海から来日し、富士市に仮りの住まいを設けて、これまで東京、高知などで作品展を開いています。作品は書や絵、てん刻など、本場仕込みのすばらしい物です。日中文化交流となる作品展をぜひ御覧ください。

書画展を開きます

日中文化交流の



文化財にロマンを見いだす

富士文化財愛好会の皆さん

地域に古くから伝わる石造物や祭りは、先人の残したものが多く大変でした。花火が鳴ると花火屋さんに電話して聞いたりしてね」と苦労を語ります。

富士文化財愛好会は、昭和五十九年市民大学歴史講座の修了生を中心に結成されました。現在、会員は三十八人。四十代から八十年代まで、歴史が好きで文化財の大切さを十分理解している皆さんが集まっています。定例会を月二回持ち、市内の文化的行事にも参加しています。

活動は発足以来これまで、市の委託による道祖神や道しるべなどの石造物調査を中心に行ってきました。

結果は「富士市の石造文化財」という冊子にまとめられ、既に第三集を出しています。

地道で根気のいるこの調査に皆さんを駆り立てるのは、文化財の持つロマン性。富士文化財愛好会はロマンチストの集まりといえるかもしれません。

さな祭りや講は、事前にわからぬものが多く大変でした。花火が鳴ると花火屋さんに電話して聞いたりしてね」と苦労を語ります。

さな祭りや講は、事前にわからぬものが多く大変でした。花火が鳴ると花火屋さんに電話して聞いたりしてね」と苦労を語ります。